

人材流動化と勤労意識

バブル経済の崩壊、急激な円高にあつて、企業は産業構造・就労構造の転換が進むことになり、労働移動も活発になった。一方、仕事や職業生活をめぐる価値が多様化し、自らの個性(能力)を生かし、より多くの収入、新たなキャリアを求めようとする気運が高まっている。

かかる変化に踏まえて本調査研究は、労働市場の流動化をめぐる企業の採用管理と個人の職業移動について近年の実情とその動向を把握し、これを通じて日本的雇用慣行のゆくえを探ることができた。

◆研究委員会メンバー

- 〈主 査〉安藤 喜久雄 駒澤大学 教授
〈委 員〉木ノ内 博道 (株)学生援護会経営企画部長
杉浦 好之 労働大臣官房政策調査部
産業労働調査課長補佐
染谷 文夫 経営人事システム研究所所長
田中 勉 法政大学 教授
〈作業部会委員〉佐々木 仁 横浜市医師会看護専門学校 講師
高橋 周 (株)学生援護会 経営企画室調査担当係長
宮原 真太郎 労働大臣官房政策調査部 産業労働調査課
〈事務局〉菊田 顯 (財)雇用開発センター 常務理事
片岡 博 (財)雇用開発センター 研究調査部長
齋藤 幹雄 (財)雇用開発センター 研究調査課長
荒井 直子 (財)雇用開発センター 研究調査部

◆目 次

- 第1章 人材流動化と経営労務の課題
第2章 統計・調査からみた「終身雇用制」の将来性と今後の雇用システム
第3章 人材流動化への企業の対応
第4章 求人情報誌購読者の求職活動と意識
第5章 会社生活と勤労意識

附属統計資料